

# 令和7年度 幼稚園評価(自己評価)結果

流山市幼児教育支援センター附属幼稚園

## 1. 幼稚園の教育目標

えがおいっぱい(徳)…友だちと仲良くし、人との関わりを大切にすることも

げんきいっぱい(体)…健康で明るく、生き生きと喜んで遊ぶ子ども

やるきいっぱい(知)…探求心を持ち、よく考え頑張る子ども

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標を基に設定した幼稚園評価の具体的な評価項目

重点的に取り組む目標	具体的な評価項目
身体を使った集団遊びを通して子どもの考えや思いが深まる保育	自分の思いや考えを表現し、伝わる喜びを感じられるような保育の展開
	こどもたちが自分の考えや思いを持てるような集団遊びの環境構成を行う
	身体を使った集団遊びに関する研究を継続的に実施し、指導改善に生かす
一人一人を大切にしている教育や特別支援教育の推進	幼児一人ひとりが自己発揮できるようにする
	特別支援教育の充実

## 3. 評価項目の達成状況及び取組状況

	具体的な評価項目	結果	理由
1	自分の思いや考えを表現し、伝わる喜びを感じられるような保育の展開	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを表現するという点については、近年保護者がこどもたちに手をかけてあげたり、こどもたちに代わって言葉にしてしまったりする傾向がみられる。そのため、年度当初は自分の気持ちを表現することが苦手な子が多かった。様々な体験をすることや、環境(人的・物的・空間的)構成が大切だと受け止め、職員間で話し合いを重ねながら支援してきた結果、自分の気持ちを素直に表現する場面が増えてきている。</li> <li>・教師側はこどもたちの言葉や思いをしっかり受け止めることを意識した保育がおおむねできているが、場によっては丁寧すぎる対応をしてしまう事でこどもたちの自発的な表現の邪魔をしてしまう可能性もある。見守るべきところや支援すべきところを見極めながら、職員でこどもたちの姿を共有し、</li> </ul>

			柔軟に対応しながら保育を行う必要がある。
2	こどもたちが自分の考えや思いを持てるような集団遊びの環境構成を行う	B	<p>・こどもたちにとってどんな環境構成が学び多き遊びにつながるかをよく吟味し、計画を立てることが大切であると考え。自ら考え遊びを工夫することでこどもたちの興味の幅が広がり、遊びが深まると思われる。今年度も様々な集団遊びを展開する中で、こどもたちの考えや気づきを受け止める時間を大切にしながら活動を進めてきた。今後も、活動を実践していくうえで教師主体にならないように、こどもたちが気づき考える場を作ることを常に意識して進めていかなければならない。また、年長が十分に遊びこんだ後、「一緒にやりたい」「同じことがしてみたい」と年少も遊びに加わると、年長の姿を見て年少が学んだり、「どうやってやるの?」と年少が尋ねたり、年少が困っている姿を見ると年長が進んで教えたりする姿が多くみられた。今後も共に学び合う姿を大切にしていきたい。</p>
3	身体を使った集団遊びに関する研究を継続的に実施し、指導改善に生かす	B	<p>今年度も、幼稚園全体の指導力を上げる意味で、「体を使って楽しもう」というテーマをもとに補助教諭の園内研を取り入れた。こどもに向き合う責任の重さは担任も補助も関係なく、保育の考え方、こどもの実態、対応の仕方など振り返る場を作り、教師一人ひとりのスキルアップのために適切であったと考える。担任もそれぞれに自己研鑽をするために、合同保育を通して互いの保育を見合ったり、話し合ったりする機会を多く持つようにした。その際は新しい事に、耳を傾ける真摯な気持ちで保育に向き合うことが大切だと考える。</p>
4	幼児一人ひとりが自己発揮できるように指導する	A	<p>・個人差が大きく同じ対応や言葉かけではうまく伝わらないこともある。個々に対応し、一人ひとりの育ちを考えながら、教員同士が情報を共有し、連携してこどもたちに対応している。年度当初は、困った事があるとすぐに助けを求めることが多くみられ、教師に伝えることはできるが、「まず自分でチャレンジしてみる」という行動ができない子が多かった。しかし、丁寧に根気よく向き合いながら、一人ひとりに応じた接し方を心掛け「子どもが自ら考え、動く」ことができるようになってきた。</p> <p>・職員間で“こども会議”を随時行い、また毎日の情報共有を重ねることで教師側も困ったり対応に悩んだりした時には、すぐに相談できる環境も整っている。互いの対応を見直したり、アドバイスをしあったりしながら、どの子もよりよい自己発揮や成長ができるよう、職員間が共通してあたる支援の方法は今後も</p>

			考え続ける必要がある。
5	特別支援教育の充実	A	支援を要することもたちの割合が増えている現状ではあるが園内では自然な形でインクルーシブ教育が行えている。子どもたちが自然に相手を受け入れたり、手を差し伸べたり、柔軟に対応している姿が多く見受けられる。それは、共に同じ場所で時を過ごし、体験しながら相手の良さや頑張りや成長を見出せる環境があるからこそだと思われる。日頃から職員間で話し合い、共通理解のもと一体感を持った保育が進められるようになってきたこともいい結果が出ていることにつながっていると思われる。しかし、支援の仕方や対応については成長と共に工夫や変化が必要となるため、引き続き研修などで学びを重ねていかななくてはならないと考えている。

#### 4. 幼稚園関係者による評価及び意見

##### (園評価の結果について)

- ・どの項目も高い評価が得られており、保護者の信頼も厚い事が感じられます。“楽しく園生活を送る”ことを念頭に一人ひとりに応じた教育を先生方が一丸となって取り組んでおられる成果です。挨拶やマナーについて課題となるのは小学校も同様で、家庭と協力しながら根気よく指導をと考えています。
- ・日頃の先生方の様々なご指導の様子が手にとるようにわかります。一人ひとり、とても個性の強いお子さんが多い中、自分の言葉で思いを伝えていくことが少しずつでもできるようになっていることは素晴らしいと思います。就学前の幼稚園でのそのような体験や習慣はとても大切で大人になってからもコミュニケーションの取り方や人とのかかわり方の練習だと思っています。優しい声掛けやどの場面でどんな対応をすればよいか判断し行動できる子どもが育っていることに感謝感激です。いつも本当にお疲れ様です。
- ・評価の数値は高く、園児も保護者も幼稚園に対してとても満足しているという結果だと思えます。特に、援助や指導、楽しく生活をしているという部分では評価が高く、これは通わせている親としても安心して幼稚園の先生に預けられるという素晴らしい幼稚園だという事だと思えます。このまま明るく安心安全で頼れる附属幼稚園でいてください。
- ・想定範囲内と考えます。評価が他と比べて低い項目は、低いというよりまだ対応できる精神年齢に達していないと言えらると思います。
- ・どの項目についても良い評価が得られていました。先生たちが丁寧にお子さんにかかわっているからだろうと感じました。

- ・評価の5領域の発達に向けて10の姿を意識した職員体制、環境整備等に配慮され、中でも健康な心と体を養い自立心を育むような人的・物的環境の工夫がなされていると思います。また、集団遊びやこどものアイデアや思い付きを大切にされたことによって生まれた、協同性の学びや道徳性が育まれ、集団だからこそ芽生える規範意識などの経験は、これから生きていく中最も大切な基盤となっていく事でしょう。
- ・「遊び」の中から多くを学ぶ幼児にとって、貴園のゆとりあるカリキュラムや教育時間の設定が思考力の芽生えやコミュニケーション能力の育成を助け、教師や友だちばかりでなく地域の人や同年齢・異年齢のかかわりなど、多様な体験の中からも多くの社会性を得られたことは、就学に向けて学びに向かう力になっていく事でしょう。
- ・保護者の啓発としても保育参観を増やすなど園を開放されていることは大切だと思います。
- ・虫や花、風の心地よさなどの自然に触れ、捕まえたバッタなどを飼い成長する姿などを追ってみるなど命の尊さを感じたり植物の収穫でその生長に感動したりなどは大切な経験であるため大切にしてほしい。
- ・製作やごっこ遊び、砂遊びでは、数量や図形そして文字への関心を深めたり、園庭に雪が舞えば小さな雪だるまをたくさん作って並べたりして、自然や季節をとらえずぐに「遊び」に変えることで、「やりたいことを」「思いっきり」「楽しむ」をかなえさせていることは素晴らしい。
- ・附属幼稚園がテーマとしていた「豊かな感性と表現」「言葉による伝え合い」が園評価ではどの項目の中にも表れていました。これはまさしく学童期に向かう中においてかなめになる部分の大きな成長だと思います。

### (園評価に対する考察について)

- ・療育機関を利用する子どもが45%というのは驚きました。また、様々な方が協力して下さる地域性を活用しながら運営していく事が地域や保護者の理解を得る上で非常に重要だと感じています。小学校前に宅配弁当を練習するのはすごいアイデアだと思いました。
- ・評価の結果とかぶりますが、その場に応じてどう行動するか、発言するかなどを「あそび」の中でたくさん取り入れて先生方と共有や療育の先生たちと連携することにより、一人ひとりに寄り添った指導ができるようになっていて素晴らしいと思います。これからも大切なこともたちのために頑張ってください。
- ・在園児の45%のお子さんが療育と並行通園している部分で先生方もたくさん考え模索され本当に一人ひとりの園児のことを思い考えられているなと思いました。私もこの部分では、療育に通っている園児がもう少し附属幼稚園に通える日数が増えれば良いなと思いました。そのためには、スタッフの人数が必要になってくると思います。
- ・全体での通常活動を行うことの難しさが感じ取れる内容と感じました。教育支援よりも生活面の支援に重点をとらざる得ない状況が見えました。

・保育所と違い、送迎時担任と顔を合わせ声を掛けられる(バスもないので絶対会うことができる)環境であり羨ましく思う。宅配弁当は新しい考え方だと思った。

・幼稚園で培った力が、3つの柱である幼児期に育みたい「資質・能力」となって、やがて巣立つ小学校での生活に、強く根付く礎となることと思います。

・役割の種別に関係なく、どの先生にも親しめる経験は、人間性を高める。また、保護者が足を運び幼児教育理解を深めるよう工夫したことなど、療育を含め多様な状況においても配慮の行き届いた園運営がなされていることに公立幼稚園の良さを感じています。

### (その他 ご意見・ご感想)

・今年度は先生方や子どもたちが何度も交流させていただきありがとうございました。職員の考え方がアップデートされ、何を指導していくのか、どんな力をつけるのかが見えてきたようでした。

・今年度初めて、社協の皆さんに声掛けし、行事のお手伝いをさせていただきました。お手伝いの皆さんはとても楽しかった、日頃の幼稚園の様子などがよくわかってよかったと言っていました。もっと早く実施すればよかったと後悔ですが、せっかく始めたので、来年度も積極的にお手伝いや見学に行きたいと思います。環境整備等もできることは協力したいと言っていました。地域にかわいがっていただけるよう幼稚園からの情報発信や声掛けをお待ちしています。

・コミュニティースクールでのベルマークの取り組みも一緒にできるようになり有難いです。地域のみならずずっと幼稚園の応援団です。いつでも声を掛けてください。何をすればよいかかわればいつでも協力します。

・在園児の表情がいつも明るくみんなを幸せにしてくれる表情でそれがやはり園の評価となって表れているんだと思いました。園児と先生方とのかかわりが本当に素晴らしいものだと思います。附属幼稚園でしか体験できない事、良さをもっともっとアピールして附属幼稚園らしさがこれからもずっとずっと続くことを願っています。

・療育との並行通園者が増えているので、他機関との「子ども・保護者に対するかかわり方」のすり合わせが重要になると考えます。

・お隣同士ですが、まるで環境が違うことを改めて感じました。いろいろと行事に声を掛けていただき参加させてもらいありがとうございました。

・園児数が減少している状況の中にあっても、課題とされている「対話力」への努力や環境整備等教育課程の編成に苦慮されていることを労い、応援したいと思います。

4. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的目標や計画の総合的な評価

5. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的目標や計画の総合的な評価

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は定着してきた合同保育の中で、運動遊びや特別支援の視点を入れ、教諭それぞれの資質向上を図り、1年間を通して園内研を定期的に行い、話し合う機会を多く持ちながら、一人ひとりの保育の質を上げることを目指した。その成果として、職員のこどもに対する対応や声掛けのスキルが伸び、保護者評価や関係者評価の文面にも表れているように思われる。今後の課題は園児の減少により課題とされる“集団の中での学び”であると考え。様々な方法を試みながらより良い学びを重ねていけるように努力していきたい。</li> <li>・どのような取り組みを園としてやっていけば、一人ひとり伸びていくのか、また、集団として伸びていくのか等、個々の姿を丁寧に見取りながら、来年度も園全体で引き続き取り組んでいく必要がある。特に、関係者評価にもあった「生活力の向上」という課題に対しては、家庭と連携をしながらこどもたちの自主性を高めていく必要があると考えている。</li> <li>・流山市では「架け橋期のカリキュラム」について近年力を入れて取り組んでいる。園でも昨年度接続期のカリキュラムを見直したり、近隣の保育所とさらに連携の数を増やしたりする等、年間の計画に位置付けていきながら、幼保小の交流が生活の一部になり、互いに成長し合えるような環境を多く作っていきたいと考えている。</li> <li>・昨今の就学前に読み書きや計算、運動など目に見えるものが好まれる風潮の中、公立幼稚園として、文科省が示している「遊びを中心とした保育」を今後も揺らぐことなく推進していかなくてはならない。また、「遊びから学ぶ」という事はということなのかや、公立幼稚園はどんな保育をしているのか等、理解してもらうことに努めていく必要があると思われる。</li> <li>・最後に、私たち保育者の接し方や指導がこどもたちの成長を大きく左右することを常に念頭に置き、研修を積みながら、自立できる人間の基礎をこの幼児期に培っていく努力をし続けたいと思っている。</li> </ul>

※項目3及び項目5の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが 不十分である